# 生活指導だより

２０１９．９．２０（金）
岸和田市立八木南小学校
校長　谷　早苗
生活指導委員会

# 岸和田祭の歩み

９月１４日、１５日に旧市内のだんじり祭も終わり、八木地区でもいよいよ待ちに待っただんじり祭です。１０月６日（日）には試験曳き、そして１２日、１３日には本番を迎えます。岸和田生まれ、岸和田育ちの人。そうでない人、多くの人が一体感をもつ地域の祭りです。ではその祭りはいつ、どうして始まって、現在はどうなっているのでしょう。

約３００年の歴史と伝統を誇り、元禄１６年、時の岡部長泰公が京都伏見稲荷を城内三の丸に勧請し、米や麦、豆、あわやひえなどの５つの穀物がたくさん取れるように（五穀豊穣）祈願し、行った稲荷祭りがその始まりと伝えられています。

昔は、穀物がたくさん取れるように祈願したお祭りでしたが、今は社会の構造も様子も変わってきました。収穫をともに願い、祝うといったことから始まった一年に一度の祭りは時代が変わり、社会が変わる中にあっても、人々の気持ちの根本に流れる**『地域』を結びつける精神**は、ずっと、つながってきています。

また、岸和田だんじり祭りは子どもからお年寄りまで、各年齢層で、役割分担を決め、各町ごとに組織、運営されています。このように統制の取れた祭りは全国的に類を見ません。昔から、そして今もなお、各町会が主催する祭礼であり、統括的な運営は毎年各町から推薦された祭礼年番が行っています。まさに、岸和田の「人」のエネルギーが岸和田祭りを支えているのです。

ではこんな地域のだんじり祭りにみんなはどのように参加すればよいのでしょうか。だんじり祭りにかかわっている大人たちは、一年前から今年のだんじり祭りのために準備をしてきました。各だんじりは町の誇りです。ところがだんじりはそっちのけで、お店ばかり回ってうろうろ。祭り気分ばかり先立って、髪の毛はカラフル、顔にはお化粧。中にはタバコでも吸っていてハッピ姿のおじさんに注意されては口答え。これが本来の祭りへの参加ではないと思います。

# 八木地区のだんじり祭が近づいてきました

# 地域の方々へのお願い

八木地区だけでなく岸和田市内でも、そのお祭りの中やそれまでの準備期間の中で、詰め所・地車小屋等で中高校生ともめたり、喫煙・飲酒をしたり…等々、様々な問題が起こっています。そういう報告を受けるたびに、そういった【悪い誘惑】から、子どもを守るために、しっかりと大人が注意をし、目を光らせなければならないなと感じています。８月の決起集会でも、お話がありましたが子どもたちへの声かけをよろしくお願いします。

先日 14 日、15 日には旧市の地車祭りが行われました。１０月６日（日）は八木地区も試験曳きがあり、１２日,１３日は本番を迎えます。八木南小学校の児童も、見物も含め、多数の子どもたちが参加することと思います。お祭りに備え、各町で鳴り物の練習等が始まっています。例年、子どもたちはその場所に顔を出し、見物等をしています。中にはこれをきっかけに夜遊びが始まる児童も出てきます。

学校では、大阪府の『青少年健全育成条例』を受け、

**◎基本的には、子どもだけでの参加はしない。子どもたちだけで行く場合は、必ず、保護者の許可を取る。**
**◎夜間遅くまで行動せず、なるべく早く帰宅する。**
**◎青年団・世話人・年番さん等の言うことを聞く。**
**◎自転車では行かない。自分の町以外の地車小屋等には、なるべく行かない。**

などを指導しています。

地域の大きな伝統行事なので、子どもたちには、しっかり楽しんでほしいとは思っています。しかし、事故や事件・トラブル等に巻き込まれれば、嫌な思い、つらい思いをするのは子どもたちです。子どもたちの身の安全を守り、楽しくお祭りに参加できるように、各ご家庭で、しっかりルールや約束を決め、参加・見物させて下さい。よろしくお願いします。